

伝統と革新が織りなす「日本酒」業界

2025年1月30日

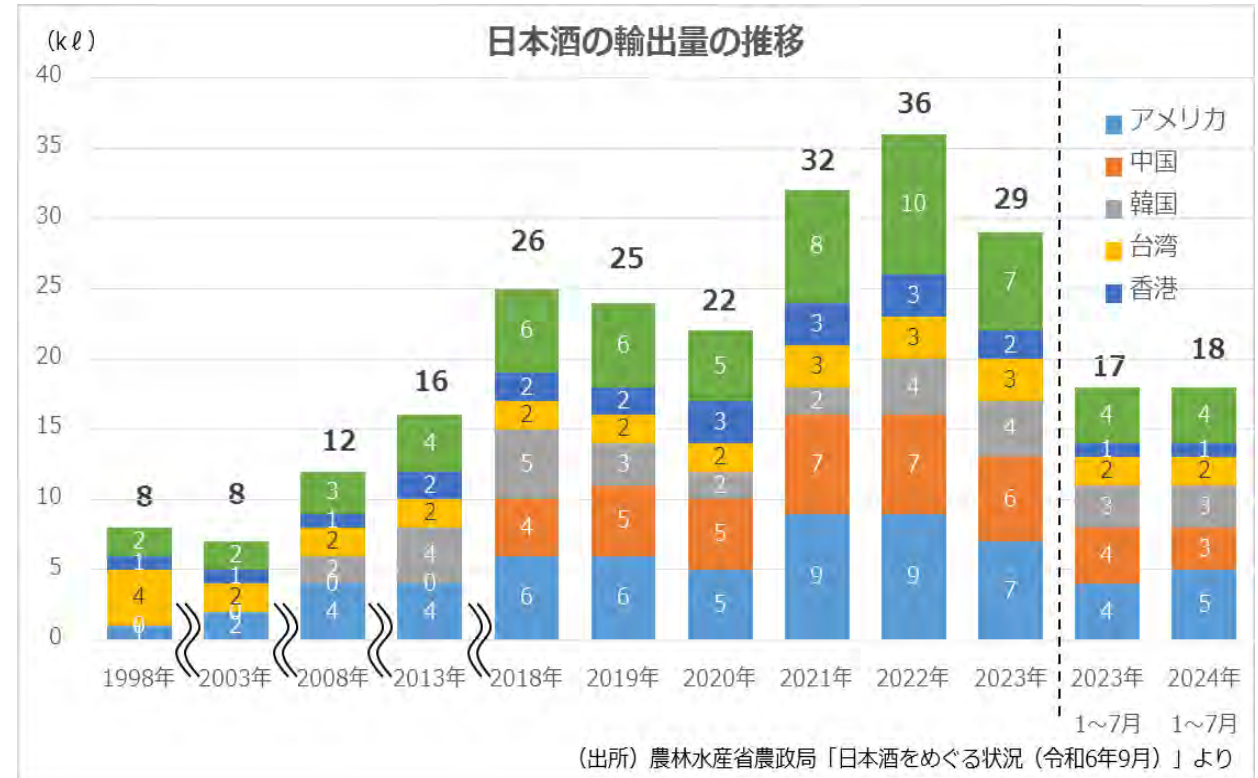
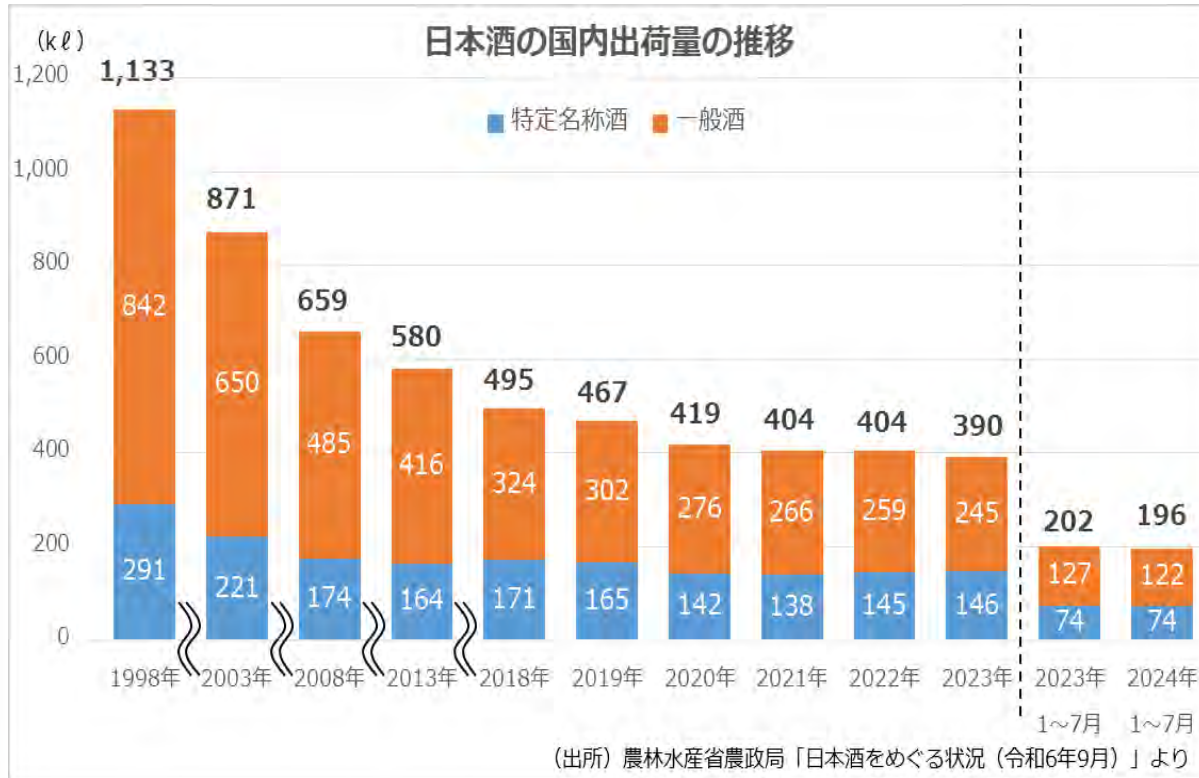
1. 伝統的酒造りがユネスコ無形文化遺産に登録

- 2024年12月5日、日本の「伝統的酒造り」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。日本からの登録は本件で23件目となります。
- 「伝統的酒造り」とは、杜氏・蔵人等がこうじ菌を用い、長年の経験に基づき築き上げてきた酒造り技術のことで、500年以上前に原型が確立したといわれています。
- 伝統的酒造りには、杜氏を中心とした職人技、地域の気候や水を活かした製法、四季に応じた製造過程など、独自の要素が含まれています。
- 今回、**高知県の文化と関係の深い「日本酒」業界の機会と今後の展望**についてお伝えします。



2. 日本酒の国内出荷・輸出の状況

- 日本酒の国内出荷量は、ピーク時（昭和48年）には170万klを超えていましたが、他のアルコール飲料との競合などにより減少傾向で推移しています。平成30年以降は国内出荷量の減少幅が大きくなり、これまで堅調に推移していた特定名称酒（吟醸酒、純米酒等）についても減少に転じ、令和5年では約39万klまで減少しています。
- 日本酒の国内出荷が減少傾向にある中、**輸出については、海外での日本食ブーム等を背景に増加傾向で推移しており、ユネスコ登録により今後の増加が期待されます。**令和5年における日本酒の輸出先国は75か国で、このうち、アメリカ、中国、韓国、台湾、香港の5か国・地域で数量及び金額の7割以上を占めています。



3. 高知県の日本酒文化

● 高知の酒の特徴

元々高知は日本酒に適した米が育ちにくかったことから、良質な酒造りが難しいとされていましたが、宴好き、お酒好きの県民の欲求と、それに立ち向かった酒蔵が長い年月をかけ、料理の味を引き立てる食中酒を昇華させてきました。

食事の邪魔をせず、キレがあり料理の味の輪郭や深みを引き立てる**淡麗辛口**が高知の代表的な日本酒です。

● 近年のトレンド

すっきりした淡麗辛口だけでなく、最近は「**CEL24**」という酵母を原料に造られた土佐酒が日本のみならず海外で人気になっています。

これまで高知の蔵が磨き上げた淡麗辛口とは異なる味わいで、一般的にはリンゴのフルーティーな香りとしっかりとした味わいが特徴で、白ワインのようだとされていますが、甘すぎない味わいなのが土佐酒らしいです。

● 酒文化

宴とお酒が大好きな高知の人々。様々な宴会文化が醸成されました。

中でも「**おきゃく**」という文化があります。「おきゃく」とは「宴会」のこと。

古くは家庭で親戚やご近所の方を招いて行う宴会など、特別なときに親類や友人、近所の人々を招いて開く宴会のことを“おきゃく”と呼ぶようになったとされています。

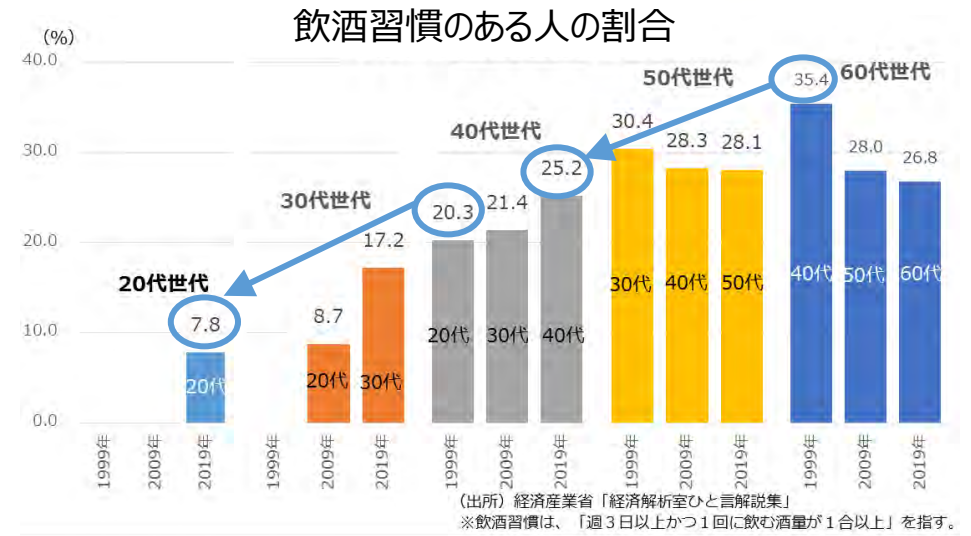


当行もオフィシャルスポンサーとなっている土佐の「おきゃく」2025

4. 日本酒業界の課題 ～ 国内市場の縮小・海外市場の開拓～

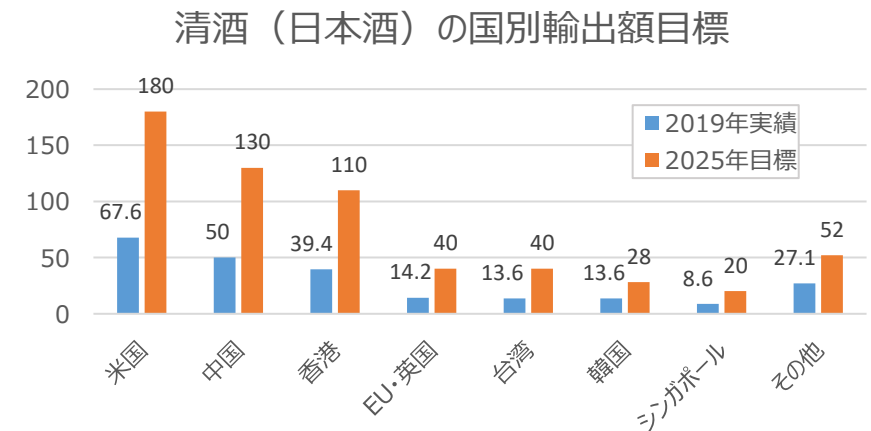
国内市場の縮小（飲酒習慣の変化）

国内酒類市場縮小の一因に飲酒習慣の変化があります。例えば、現在の20代の飲酒習慣は7.8%で、40代が20代だった頃の20.3%と比べ減少しています。また、現在の40代は25.2%ですが、60代が40代だった頃の35.4%と比べると大きく低下しています。各年代で同様の減少傾向となっており、これが市場の縮小に影響しています。



海外市場の開拓（輸出促進）

日本産酒類の輸出金額は増加傾向ですが、世界市場での割合は0.1%程度にすぎません。**政府は2030年までに農林水産物・食品の輸出5兆円を目標とし、清酒等を重点品目に設定**しています。**海外市場開拓には、現地流通大手との取引、輸出先の多角化、現地ニーズに合わせた商品開発、関税や規制の課題解決が重要**です。



経済産業省「経済解析室ひと言解説集」、国税庁「酒レポート（令和6年6月）」、国税庁「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略～マーケットイン輸出への転換のために～」より当行にて作成

5. 日本酒業界の今後の展望

日本酒業界の今後の展望には次のような取組みが期待されています。

●国内外市場拡大への挑戦

- ・海外輸出拡大：欧米やアジアを中心に日本酒の需要が増加する中、地域特産品としてのブランド力向上の取り組み
- ・若年層へのアプローチ：低アルコール商品や体験型マーケティングなど、若年層向けの新商品開発や需要喚起

●伝統とイノベーションの融合

- ・技術革新：AIやデータ活用による醸造技術の進化やより多様な味の創出などへの取り組み
- ・持続可能性：環境負荷を軽減する酒造工程や、地元農業との連携による地域貢献

国内外市場拡大への挑戦



海外輸出拡大
若年層へのアプローチ

伝統とイノベーションの融合



技術革新
持続可能性